

經典餘師

詩經

四

11

1029

32

1023
32

小雅二

詩經卷之四

小雅二

風雅の體の異なり故の
天子諸侯の會朝祭祀等を用ゝ樂歌
小雅の群臣賓客燕饗の時
用ゝ樂歌なり

○鹿鳴之什二之一

國風の如く國の分ち

十篇の詩と一卷と周南召南と
華等と名と人として別て一組と爲す
同ト戰法と人として別て一組と爲す
什とく人の例として名づけたり

鹿鳴三章

の詩は君より我群の臣
下すとい他國の賓客と

燕亨の時と歌なり後の世に郷人
よもとて用ゝる鹿の物を食するに連

呦呦鹿鳴 野之苹 我有嘉賓 鼓瑟吹笙 吹笙鼓簧 承筐是將 人之好我 示我周行

呦呦鹿鳴 野之蒿 我有嘉賓 德音孔昭 民

呦呦鹿鳴 野之芣 我有嘉賓 德音孔昭 民

呦呦鹿鳴 野之芣 我有嘉賓 德音孔昭 民

經曲、餘而

率、む、る、の、故、賓客の會合して

呦呦鹿鳴 食野之苹 我有嘉賓 鼓瑟吹笙 吹笙鼓簧 承筐是將 人之好我 示我周行

呦呦鹿鳴 食野之蒿 我有嘉賓 德音孔昭 民

食野之蒿 我有嘉賓 德音孔昭 民

不佻君子 是則是儆 我有旨酒 嘉賓

式摯以教 客道德之音 孔昭已昭 明

酒宴のとき 旅衆會合して 先王の道と語

呦呦鹿鳴 食野之芣 我有嘉賓 鼓瑟

鼓瑟鼓瑟 鼓琴和樂 且湛我有旨酒

以燕樂嘉賓之心 相和と奏するが如く

嘉賓と湛

嘉賓と湛

詩經卷之四

二

四牡五章

四牡五章

使臣の勤る天子の役事、依て周へて文王の

時西國諸侯の伯、苦勞を察し、その情と探て、慰むる

詩、臣と饗食する歌なり

四牡駉駉

周道倭遲

豈歸之懷

靡我心傷悲

四牡駉駉周道倭遲豈不懷歸王事

靡監我心傷悲

大夫使臣、行て、驛々、す、

思、途の遠く、此、心、我、古、郷、歸、と

傷、悲、い、君、の、こ、と、又、母、の、こ、と

○四牡駉駉嘽嘽駉馬

四牡駉駉

嘽嘽駉馬

豈歸之懷

靡我心傷悲

靡啓處

豈不懷歸王事靡監不遑啓處

駉馬の毛の黒く、馬なり、嘽々、い、の、風、俗、と、ん

駉駉者、駉載飛載

下集于苞栩王事靡監不遑將父

駉駉者、駉載飛載止集于苞杞王事

靡監不遑將母

鳥、り、駉々、い、飛、の、り、又、飛、く、る、鳥、なり

人、て、父、母、の、膝、下、に、り、て、孝、養、と、ん、

更、駉、ハ、孝、行、の、鳥、と、つ、て、さ、け、ば、り、と、心、

皇皇者華五章

皇皇者
華彼原隰于駘

皇皇者華五章

ふの詩へ君の臣と使
者ふ命に遣ふ

歌の樂の

皇皇者華。于彼原隰。駉駉征夫。每懷。

懷
 驍ハシラ 征夫テイフ 每ツネニ
 及キ 罪ツミ

我馬維駒六轡
濡りよが如く載
ち馳載ち驅て
周ねく爰よ各
諏と

我馬維祺六轡
絲の如く載上

經典餘而

詩經卷之四

○我馬維駒六

我馬維駒。六轡如濡。載馳載驅。周爰

咨諏

我大夫の車の馬の二歳の駒
綱の四馬うねばハ響くんども六響とて

と前^{まへ}に出^でたりその色^{いろ}濡^ぬけたり
と君^{きみ}の命^{いのち}を以^{もつ}て國^{くに}へ馬^{うま}と驅^かちて馳^はせり
心^{こころ}道^{みち}ゆくうちも念^{おもひ}ふけて職^{しやく}分の及^{およ}ばぬ
と懷^{いだ}て君子^{くんし}賢^{けん}人^{にん}は逢^あはれ何^{なん}事^じも周^{まわ}りて
とてその委^い曲^{きよく}と謝^げ詢^{ゆん}
○我^{われ}馬^{うま}維^い騏^き六^{りく}

馳載驅周あま爰咨謀あま

轡如絲載馳載驅周爰咨謀あま

我馬維駟六轡あま沃若あま載馳あま

我馬維駟六轡沃若載馳載驅周爰

馳載驅周あま爰咨度あま

咨度あま我馬維駟六轡既均載馳載驅

我馬維駟六轡あま既均載馳あま

我馬維駟六轡既均載馳載驅

馳載驅周あま爰咨詢あま

周爰咨詢あま常棣八章あま

常棣八章あま常棣之華あま

常棣八章あま常棣之華鄂不韡韡凡今之人莫如

常棣之華あま鄂不韡韡あま

常棣之華鄂不韡韡凡今之人莫如

不あま人兄弟あま莫あま

兄弟あま兄弟あま兄弟あま

死喪之威あま兄弟あま

死喪之威兄弟あま兄弟あま

孔あま哀あま兄弟あま

死喪之威兄弟あま兄弟あま

求あま兄弟あま

死喪之威兄弟あま兄弟あま

脊令在原あま兄弟あま

脊令在原兄弟あま兄弟あま

難あま每有良朋あま

難每有良朋况也永歎あま

朋有あま况也あま

難每有良朋况也永歎あま

難あま疑あま

難疑あま難疑あま

伐木三章

木
と伐
と丁
丁

鳥の鳴く
 嚶嚶
 自出て喬木に
 遷る嚶
 鳴（笑）其友と求
 り（笑）聲彼鳥と
 相（笑）ひ（笑）猶友と
 求（笑）り（笑）聲知ん

父母は親でがと甥と
ふすともちう兄と弟とい

つてふたつてゝと室家よ宜と云ふべからん妻孥
の間をくくつくきも皆えん兄弟のしつ
然ぞとくことをさとりぬぞ

伐木三章

朋友親族故旧と酒宴
するの樂歌なり

伐木丁丁鳥鳴嚶嚶出自幽谷遷于

喬木嘯其鳴矣求其友聲相彼百木

猶求友聲矧伊人矣不求友生神之

聽之終和且平

山中の光景といふとさう下々
と樵者等のおと伐とり声

嬰おほ鳴なふふとと愛あひすすくく幽く谷や間まよりより出でるる鳥とりもも嬰おほ

伊人(笑)友生

と求めずん
神の之と聴や終

ふ
和
し
且
平

木と伐と許許
酒と醺て

黃わう有ゆう既き

肥籍有て
諸父と速く

寧通く来不
我と願く弗

微於繁ミヅノ 酒サケ

八簋既肥牝

經典餘師

寺經卷之四

4

木と阪千伎酒と
醺で酔ふと有
邊豆踐るに有
兄弟遠く魚民
之失徳乾餼以
て愈つ酒有
我は肴酒魚
我は酤坎々
して我は鼓
ち躰々として我
は舞我服は追

て 笑 此 滑 と 飲

賤て交義の兄弟同様の人々レづれも遠
 無うすうて遊とてなり實は民の交情
 出つとちなりほく乾餼などのなる食物
 てもかどま一行届する人の慰とる
 とりて手傳の人々へつくるさう我
 ちよ酒と滑るんべう我ちよ
 さるべう又我ちよに鼓と吹々どり舞蹲々
 業暇の日のよ朋友知音の人とらりて
 の滑酒とて遊真ふつふと

天保六章

天保六章

以下の人君の詩五首とて

天爾てんにんと保定かてい
て亦孔またこう之これ

天保定爾赤孔之固俾爾單厚何福

不除俾爾多益以莫不庶（上）（立）（人）（の）（徳）（の）
（能）（下）（仁）（又）（天）（ふ）（單）
（報）（あ）（ひ）（て）（再）（の）（祿）（と）（保）（定）（の）（み）（る）（す）
（厚）（く）（護）（て）（孔）（を）（固）（く）（福）（幸）（に）（く）（来）
（一）（り）（り）（を）（除）（て）（さ）（さ）（血）（を）（に）（も）（庶）（い）
（び）（り）（り）（さ）（さ）（も）（づ）
○天保定爾俾爾戩（天）（保）（定）（爾）（俾）（爾）（戩）
穀馨無不宜受天百祿降爾遐福維（穀）（馨）（無）（不）（宜）（受）（天）（百）（祿）（降）（爾）（遐）（福）（維）
日不足（日）（不）（足）
（大）（凡）（の）（道）（理）（直）（に）（ん）（は）（い）（づ）（か）（い）（ち）（と）（も）
（全）（く）（へ）（君）（の）（徳）（の）（天）（心）（は）（通）（じ）（る）（と）（以）（て）
（その）（還）（つ）（る）（福）（と）（さ）（さ）（い）（ふ）（ふ）
○天保定（天）（保）（定）
爾以莫不興如山如阜如岡如陵如（爾）（以）（莫）（不）（興）（如）（山）（如）（阜）（如）（岡）（如）（陵）（如）

○天保定

爾以莫不興如山如阜如岡如陵如

天とく
のまゝ
とく

く陵たかねの如ごとく川がは
 の方あたに至いたる如ごとく
 以もつて増ふふと
 莫なし

二角いづれも幸福と増ふる
 としんと莫きの心あり
 ○古獨爲

饒是用孝享禴祠烝嘗于先王君

是より天の福祥と
降ふふとくも道

王^{ミナト}は千^チて君^{ミコ}の曰^{イハレ}
爾^ニとト^トする^スは萬^{マン}
壽^ス疆^{キヤウ}無^ム

順又孝と尽し依とて述なり凡祭
 り吉日をもち又大射の礼を以るふん
 善土をもち祭事より極に蠲を尽し供物
 と饗と名づけて至極に蠲を尽し供物
 齋戒沐浴等より酒食氣を以てのとし是
 と用て孝と尽し享とてその四季の祭
 秋と嘗冬と烝とて先公とて周の後稷

月の恒るの如く
日の升るの如く
南山の壽の如く
く鷹不崩不松
柏之茂るが

神之弔タラシ矣。詒タテマツル爾多福。民之質シテ矣。日用ニテ飲食羣ス黎百姓。徧ハル爲爾德。誠マコトの至タラシいと

飲食羣黎百姓徧爲爾德

再また以もつて神カミ明アキラカ来来終ハシヤ
 再また多おほくの福フク祥サマと詒タテマツルの依よて下くだ々々民タタ百ひゃく姓せい
 つゞく私わたし欲ほつすく心こころ質しつその徳とく後のち一ひと国くにの風ふう俗よくの
 巧たねなりとあて用もちの飲の食くといふ人ひともと
 群ぐん衆しゆの百ひゃく姓せいはつるまで信しん實じつの心こころ
 徳とくと助たす成なりよの心こころ再またの○如ごと月げつ之の恒とこ如ごと日にち
 之の弁べん如ごと南なん山さん之の壽じゆ不ふ騫せん不ふ朋ぽう如ごと松しょう柏はく

之弁如南山之壽不騫不崩如松柏

如ごと爾なんじ或ある承うけたまは
不なと無な

之茂シホ無ム不フ爾ニ或ハ承カ
次弟々々盛々々々

恒月こころづきの次弟つぎ々々くさくさと増あ又朝日あさひの
 玄牛くろぎがぶく又また土地と鎮しづるがおくく騫せんく
 なく崩くずれけいゆいくして又松柏しょうはくの新あらたな
 る乗のりと生うじて千年せんねんもさうぶくく相承あひつぎて
 叔廣しゅくひろくんとさうさうるなり
 とのころちり

采薇六章

采薇六章

此方の狄夷代々唐士と
犯してる漢の

代は匈奴唐の代は突厥との間に
 韓王とよみになり周の世に
 の獵狩なり依て都より邊境へ征伐の
 兵とにあり置とありその番手としての
 ども今年三月は都と出て翌年十二月
 は彼地と立てその明の二月は帰ると

て三年と交代ふんばるの期の
久しきと就て古里と戀ふてこの

歌に

薇と米薇と
薇も亦作止
人曰歸を
歳も亦莫止
靡家靡猥
故啓居之
不猥杭之

米薇米薇薇亦作止曰歸曰歸歲亦

莫止靡室靡家猥杭之故不遑啓居

猥杭之故

食物とせしといふ作あがり入つ
帰んよなむつてしや今年も莫
めれどすき翌年の暮るやい帰ることも
うるべしとゆくとす人とおくはものぐれ
けしむ娘の夫の家つらうなうなうに
別れ妻のうらなう室をけんやうなうに
これる北の方の猥杭の犯さるるがゆふかくい
憂ふらふとよ啓跪て安居するに思ふもやう

薇と米薇と
薇も亦柔止
人曰歸を
心も亦憂止
心烈烈
成未定靡
聘使

米

薇米薇薇亦柔止曰歸曰歸心亦憂

止憂心烈烈載飢載渴我成未定靡

使歸聘

烈々て叫ぶよりいふ心もやれぬのしと飢渴

戌の役事いすも定ふと帰る中かふる

○米薇米薇薇亦剛止曰歸曰

歸歲亦陽止王事靡盬不遑啓處憂

心孔疚我行不來

彼爾維何維常之華彼
 路斯何君子之車戎車
 既駕之車戎車既
 業々々々々々々々々々
 定居之車戎車既
 月三捷之車戎車既

日月のうらやけといふ人々もや蔽の副
 も陽月よりびり就中王の役事のうらやけ
 心の憂も我疾はるるといふ人々もや我疾
 故里へより来りての心
 〇彼爾維何維常
 之華彼路斯何君子之車戎車既駕
 四牡業業豈敢定居一月三捷
 装のうらやけといふ人々もや蔽の副
 りたりと美々々何れとみれば常操の華
 何れとみれば君子の乗るやとみれば他
 何れとみれば牛馬の乗るやとみれば何

彼四牡之駕
 四牡騤々々々々々
 子所依小人
 所依小人
 不人豈日
 不人豈日

昔我往々々々々々
 楊柳依依々々々々

見も四々の牡共々々々々々々々々々々
 〇駕彼四牡四牡騤騤
 君子所依小人所腓四牡翼翼象弭
 魚腹豈不日戒猘猘孔棘
 〇昔我
 就て腓々々々々々々々々々々々々々々々
 〇昔我

出車六章

出車六章

軍兵も初め軍と出して
戦場の苦勞と

往美楊柳依依今我來思雨雪霏霏
行道遲遲載渴載飢我心傷悲莫知
我哀狄地は逗留の中昔とれ古里に在
て今のの地へ往きをりい比の楊柳の
り美々く依依としてそのなごめをい
雨の霏々としてすれすれ万里の行道
わんが往來も遅々たり始終のいふ
はいつくればいふに心ぞ傷悲いふ
大將士卒の艱苦とて聞知つて人
に我哀をいふ知もの莫とていふの無
うた

のどきりりあふ天子の苦勞と云ふ
りくさるる歌ちり

我出我車于彼牧矣。自天子所謂我來矣。召彼僕夫謂之載矣。王事多難。

維其棘矣

大將みづから我軍の
うへに我車と推出し
我軍の
牧野の

と謂い美王事難
多おほ維其棘えんえんえん
り美

我我車と出と
彼郊于(笑)此旗
と設け(笑)彼旗

忠と尽すのふり人々王命の重
とせしめて忽畧よとてうべし

我出我車于彼郊矣設此旐矣建彼

王南仲は命じて
往て方于城く
車と出せし
彭より旂旆央
央より天子我
命じて彼朔方
城赫々たる南
仲獵杭子は襄

心こころちりりさそさそ
施ほ々々ちりりちりり雷かみなり

都^{みやこ}城^{しろ}とつれの野^のと郊^{きやう}こり
郊^{きやう}の外^{ほか}と牧^{まき}とり人^{ひと}上^{うへ}とる
車^{くるま}兵^{へい}とぐ一^{ひと}戎^{えい}車^{くるま}と旌^{せい}と
旗^{はたけ}とと亀^{かめ}と蛇^{へび}とと画^えと

うりやうり^{やう}麋^ぎと麋^ぎ牛^{ぎう}の尾^びと附^つく^くのうりやうり^{やう}は嚴重^{げんじゅう}の實^じの國家^{こくか}の大事^{だいじ}なり

大將たるもの心と憂て悄悄とくつり
元より苦勞と率とくつり故に敵に對し

てふく慎
なりし尤も遠慮す
三軍の大切
○王命南

仲往城于方出車彭彭旂旐央央天

子命我城彼朔方赫赫南仲玁狁于

襄王の南仲と大將の命であいて軍

兵車の装飾、彭々、旂旐、旌旗、央々、
のど、天子、かく、我、命、
奴輩と予、威光と赫々、獫狁の、
○莫我往

矣黍稷方華サニ今我來思雨雪載塗サリ

事多難不遑啓居豈不懷歸畏此簡

書
大將軍の勝てたる地へ往来す歌
昔ぞらて我の地へ往来す歌
初六

月のひらううてて黍稷あはれ方はは華はふれううう来きに

ちろ春の早うく去年兩雪も東くをと
 け泥塗ちろうぬくん王事の

苦多端くたたん 帰かへ 懐おもひ 居い のいとぬあ、
 りるさへ 帰かへ 懐おもひ 居い のいとぬあ、
 りるさへ 帰かへ 懐おもひ 居い のいとぬあ、

たれん 命いのち 令しづめ らんの 簡書かんしよ らんに 依よて
うくの おろしやぞ

昔我住（美）泰
 稷方（華）方（方）
 今我来（思）兩雪
 載（塗）王事難
 多（啓）居（遑）
 不（豈）歸（と）
 懷不（ん）此簡
 書（と）畏（み）

經典餘師

詩經卷之四

十四

嚶々々々草蟲
 躍々々々阜螽
 未だ君子と見
 らば憂心忡々
 既に君子と
 見ば我心則ち
 降人赫々々々
 南仲薄々西戎
 と伐

訓と執醜と獲
 て薄言と還
 歸を赫々
 南仲獵狁于
 夷

狀杜四章

經典、餘而

詩聖卷之四

嘒嘒草蟲。趯趯阜螽。未見君子。憂心
 忡忡。既見君子。我心則降。赫赫南仲。
 薄伐西戎。○春日遲遲。卉木萋萋。倉庚喈喈。采芣苢。祁祁執訊。獲醜。

薄言還歸赫赫南仲玁狁于夷

大將
歸國

のちうらふ 春景氷くろく比ちりこのとれ
 生獲と引く てくろくわうさぬちり 春の日
 うも遅く うれし 舟おも妻々ふらりとふ
 くも遅いといふうら 倉庚の昔々うら
 繁と彩人々も 初々うらぶ 風情とあはれ
 けくの中と軍兵列とら 朝敵の訊
 と執てその外とくうの醜多とくへ獲て
 薄言すれまとうらふて 欠々ふをへ還帰
 まくちりももや 猫狽のどのどもとく
 く夷滅たりて 大將南仲の名いいく
 らよ 赫々うらぶぞ
 うう けく

杖杜四章

戰役之苦勞して歸る
諸士とてくさぬをぞ

ふ誠なりやいふそのふすゝて妻の
さぞやうくあそいふんちとてのどく

有杜之杜有皖其實王車靡監繼嗣
日陽止女心傷止征夫遑止

有杜之杜有皖其實王車靡監繼嗣
日陽止女心傷止征夫遑止

有杜之杜有皖其實王車靡監繼嗣
我日日月陽止女心傷止征夫遑止

有杜之杜其葉萋萋王車靡
監我心傷悲卉木萋止女心悲止征
夫歸止

歸人止

彼北山言采其杞王車靡
監我心傷悲卉木萋止女心悲止征
夫歸止

載匪來憂心
孔疚期逝
至不而多恤

有杜之杜其葉萋萋王車靡
監我心傷悲卉木萋止女心悲止征
夫歸止

子

正會言近



る軍役の用物などいづれも載物の車もある
の帰來もいづれり今載物の車もある

生死のやうに便も至るべく血と病とをとり

考へて
征夫のうへに
借も帰を
詔會
定め
と

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

火の焚てゐる壁の譜の代の

ふみ詩も笙歌なり
うづと上にあふ

つゝ以上望の曲々な声の
わうて詞かゝりとり樂め

序の鹿鳴四牡皇華と瑟と彈う
 之の後南陵白華華黍と笙う

云々
吹
と

宴饗の時、酒肴成、
然、
多、
と

述

魚麗于罍ウヱ。鰕ウヱ魚ウヱ。君子有酒。且ウヱ多。

魚留于麗鰭鯊
君子酒有旨あじく
且多なり

興きよとと敬けいのとちちりりすすななりり客きやくととそそ

魚麗于鰓魚麗于鰓勸勸鱧鱧君子酒有多且且旨旨

魚麗于鰓魚麗于鰓鯉鯉君子酒有旨旨且且有有

物其多矣物其多矣維其維其嘉矣嘉矣

物其旨矣物其旨矣維其維其借矣借矣

魚麗于鰓魚麗于鰓勸勸鱧鱧君子有酒多且旨旨

魚麗于鰓魚麗于鰓鯉鯉君子有酒旨且有旨且有

物其多矣物其多矣維其嘉矣維其嘉矣

物其旨矣物其旨矣維其借矣維其借矣○物其有美物其有美

物其有美物其有美維其維其時矣時矣

南有嘉魚南有嘉魚四章

南有嘉魚南有嘉魚然然君子酒有嘉君子酒有嘉賓式賓式以樂以樂

維其時矣維其時矣

南有嘉魚南有嘉魚四章

南有嘉魚南有嘉魚然然置置置置君子有酒嘉賓君子有酒嘉賓

式燕以樂式燕以樂

之之南南然然君子有酒嘉賓君子有酒嘉賓賓式賓式以樂以樂

賓式て燕以

て衍む

南ノ木ノ有ル甘シ

朝之之累之君

子酒有嘉賓式

燕之と

人
ま
あ

扇々者い

駢然然々々來

愚君子酒有

鼎賓式て燕一

又思

式燕以衍

詞
心
上
の
南有膠木其瓢

豊後守酒井忠勝

壘之君子有酒嘉賓式燕紛之

のちとくさうより木ゆへに甘飴ちやうふくどの夢

十
三
七
二
五
九
六
四
八
一
〇

君
子
之
嘉

眞酒とけ 燕饗福ん

氣羽圭心と綏
○
○

扁者駢丞然來思君子有酒嘉賓武

[illegible]

燕入思
らりゅう
ととい
らんぐ
を専

二
の
く
て
樹
と
ろ
む
の
ろ
ろ
ん
う

一の專一といふ嘉賓といふ

賢者の然來に酒宴

と
ぢ
い
あ
う
う
又
け
う
う

由夷いよの三篇の笙の詩うたなり

日月
今ハ
ハ
ヒテ
カ
トモ

崇禎

聖

由儀

西山月臺五章

南山有臺五章
のしむとふく

南山有臺北山有來樂只君子邦家

兩山不言言山不言終人言一

之基樂只君子萬壽無期

三
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

草木のやうなふとく
君子の徳

うゝ
が
ゆ
り
ら
ふ
と
れ
う
り
樂ガク
只
と
人
人
君

の徳有り人々の心とくちり買入

經典餘而

詩經卷之四

五

南山有桑有北
山有楊有樂只
の君子邦家之
光樂子の君子
萬壽疆無

南山有杞有北
山有李有樂只
の君子民之父
母樂只の君子
德音已不

南山有栲有北
山有桤有樂只
の君子遐不眉

壽樂只君子德音是茂

南山有栲有北
山有桤有樂只
の君子遐不黃
耆る不樂只
の君子爾の後
と保艾とん

蓼蕭四章

邦家と治る基なり万年の期なり
○

南山有桑北山有楊樂只君子邦家

之光樂只君子萬壽疆無疆

○南山有杞北山有李樂只

君子民之父母樂只君子德音已不

杞の能邦家とれづむるがやうに父母

の音いつまでも不の德音とん徳

○南山有栲北山有桤樂只君子遐不

眉壽樂只君子德音是茂

栲の能邦家とれづむるがやうに父母

の音いつまでも不の德音とん徳

○南山有栲北山

有桤樂只君子遐不黃耆樂只君子

保艾爾後

栲の能邦家とれづむるがやうに父母

の音いつまでも不の德音とん徳

○南山有栲北山

有桤樂只君子遐不黃耆樂只君子

保艾爾後

蓼蕭四章

諸侯の天子采朝の天子酒宴とん

の詩とん恵と

夢 彼蕭斯 零露漙漙 既見君子 我心寫兮 燕笑語兮 是以譽有 處兮

夢 彼蕭斯 零露漙漙 既見君子 龍為光其 德不爽 壽考不忘

夢彼蕭斯。零露漙漙。今既見君子。我心寫兮。燕笑語兮。是以有譽處兮。

斯零露漙漙。既見君子。為龍為光。其德不爽。壽考不忘。

○夢彼蕭斯。零露漙漙。既見君子。孔燕且弟。宜兄宜弟。令德壽考。

○夢彼蕭斯。零露漙漙。既見君子。孔燕且弟。宜兄宜弟。令德壽考。

○夢彼蕭斯。零露漙漙。既見君子。孔燕且弟。宜兄宜弟。令德壽考。

○夢彼蕭斯。零露漙漙。既見君子。孔燕且弟。宜兄宜弟。令德壽考。

湛々露

陽 匪 晞
不 厭 夜
飲 醉 不 歸
魚

是と天子より
候ごとくして
審

上の心を是に天子の外へ出でるに諸
 侯の朝を觀るともしらけるともいふける
 御の車の音のけこくといふともいふこ
 とやるふぬちりの緯のといふないてあられる
 と革とりの冲々の手經のといふ思はるり
 和の御の車の鈴の響の時のすまらる
 誠のといふは君臣の禮といふはといふは
 同のといふは萬の幸福といふは千代
 同のといふはといふはといふは

湛湛露斯匪陽不晞厭厭夜飲不醉

諸侯朝觀のくん天子引神宮女と
王孟とやとて切正寧と

湛々々々露斯
彼豊草ニ在厭
厭々々夜飲宗
ニ在テ載ラ考

湛々露斯
彼把棘之在

豊豆 ちんちん 露

○湛湛露斯在彼

の草のちげん
 と考へん宗室の路寝のちげん
 寝のちげん
 の詠へん天子夜宴のちげん
 室のちげん
 のちげん
 〇湛湛露斯在彼杞
 のちげん

○湛湛露斯
斯彼
祀

形弓昭兮受て
 言ふ之と載我
 嘉賓有中心
 之と嘉ふ鐘
 既と設けて
 朝之と右
 形弓昭兮受て
 言ふ之と素
 我と嘉賓有
 中心之と好
 鐘鼓既と設け
 て一朝之と醕

○形弓昭兮受言載
 之我有嘉賓中心嘉之鐘鼓既設一
 朝右之
 右の字は人との字とす
 形弓昭兮受言載之我有嘉賓中心好
 之鐘鼓既設一朝醕之
 醕は酒を飲むこと
 上の心とす
 上の心とす

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

君子の徳と愛

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

菁菁者莪四章

心こころの宝たからと錫すずが如ごとくなり貝かい一對いっとうと

汎汎揚舟載沈載浮既見君子我心則休

周の宣王のとき
この地の狄がうろ
都と杭と

侵^シて^ハ宣^シ王^トの^ハ賢^ク相^シ尹^ト吉^ト甫^トの^ハ命^ヲに^テ伐^シめ^ルに^テ勝^リて^ハ帰^リ國^ニを^ハ吉^ト甫^トに^テ之^ヲと^テ賀^スし^テ詞^ヲを^ハ作^スり^テ國^ニ人^ヲを^ハ以^テて

六月棲棲我車既飭四牡騤騤載是

常服猴衣孔熾我是周急主于出征

兵とともうへて出で元伐とす王の軍
 盛なりげゆへは是用急遽く王の軍
 とらんちり猛虎のつとぬん弘大熾
 用の常し服する物と載て出陣装束
 ととの我の軽と戦がよとんと戦
 四の牡馬いづれも戦がよとんと戦
 人々攘々て突不とちり依て軍兵
 ばちんども北狄の乱らるるがゆへに都の内
 国都と匡みちり民の心と
 仁みちり心と

比物四驪閑之維則維此六月既成
我服我服既成于三十里于出征

我服既成て
于三十里三
于出征て
以て天子と佐
く

以佐天子

大有顓カ薄ロ伐カ獫ロ狁カ以テ奏ス膚ム公ニ有リ嚴リ有リ
翼ニ共ニ武ス之ヲ服ス茲ニ武ス之ヲ服ス以テ定ム王ノ國ヲ

見^ミる^ル 駕^カ 車^{クルマ} いづれも 廣^{ヒロ} 脩^{シユ} 凡^{ソノ}く ますく せやく
 大^{オホ} 方^{カタ} うゝとて ころの いふふ して い

獵狁茹は匪ど
焦獲の整居を
鎬及方て侵し
て涇陽に至る
織文鳥章白旆
央々より元戎
十乘以て先行
と啓く

先啓行

衆と整へて都らく政を焦獲
 とく如く居てしんりり鎬の京を
 びよ方の地へ侵さるりはなり
 びよ所へ深えりり心なり是と
 以て六月といふも官軍と急を
 織とひりりその文い朱雀の鳥と旱
 一白と施とカビうして央々
 もくも法令なりく先陣として元戎

吉甫燕喜既多祉と受鎬自來歸と我行て永久諸友と飲御と魚鼈膾鯉

言經卷之四

車既安如輕如軒四牡既佶既佶且

閑薄伐獫狁至于太原文武士只南萬

邦爲憲
大軍の戎車いづれ
安きより依て輕しき
重きより

法くもと閑くりそれゆへて専せんも又尙しやう抗かうう能

勝て残てとすぬ實下詰南

人の憲と爲すは、萬邦の吉

南燕喜既多受祉來歸自謁我行永

久飲御諸友包鼈膾鯉侯誰在矣張

仲孝友
侯誰在矣
張

仲孝友たうゆう 吉甫きふ 天子てんし の軍功ぐんこう と賞褒しょうほう て

酒宴とんすゝん喜悅とんすゝん誠とんすゝん祉幸と
受とんすゝん鍋の都へ来り秋と

伐て帰るの行道とて日數氷く久
くかりたりとてそのさむの鬱勞と慰

飲のてゝあゝも諸もの友朋ともとたがひは酒宴しゅえんの魚うしほ

焚^くは^く鯉^のの^さ鱸^めの^う座^の上^のの^き客^の
人^の々^の々^のの^ち張^の仲^のや^のん^のど^のい^のう^の
孝^の心^のは

て好弟^{きようてい}きとて人の為^{ひとのため}め
ともか^かなりとそ

采芑四章

采芑四章

宣王のとき、方叔といふものが大將として伐滅さしむるそのとき、軍兵と

も 芭 と 粉 て 食
ち ー ー ー

薄言采芑于彼新田于此蓄畝方叔率止其車三千師于之試方叔率止其四騏乘四騏翼方路車奭有簟第魚服鉤膺儔革

薄言采芑于彼新田于此蓄畝方叔
泣止其車三千師于之試方叔率止
乘其四騏四騏翼翼路車有奭簟第
魚服鉤膺儔革
軍戰行道之路
蓄畝方叔率止其四騏乘四騏翼方路車奭有簟第
戰土と多しやういふと引く
數はふたが戦場
五人都て百人乗てさうり
の人と以て予
敵すくやが叔の試は誰と

薄言采芑于彼新田于此蓄畝方叔率止其車三千師于之試方叔率止其四騏乘四騏翼方路車奭有簟第魚服鉤膺儔革

薄言采芑于彼新田于此蓄畝方叔
泣止其車三千師于之試方叔率止
乘其四騏四騏翼翼路車有奭簟第
魚服鉤膺儔革
軍戰行道之路
蓄畝方叔率止其四騏乘四騏翼方路車奭有簟第
戰土と多しやういふと引く
數はふたが戦場
五人都て百人乗てさうり
の人と以て予
敵すくやが叔の試は誰と

允方叔征伐獫狁荆來威

車攻八章

允方叔征伐獫狁荆來威
作唐土の大邦の蠢動とや
執事の醜羣を討獲する末が
征伐の威を來朝する
服の心を朝する

車攻八章

諸侯來朝の行程の
遠近都を天下の中興と
宣王の政務と
器械と

我車既攻

我馬既同

四牡龐龐

駕言東徂

田車既好

四牡

之子于苗

選徒囂囂

詩經卷之四

我車既攻我馬既同四牡龐龐駕言

徂東

車堅攻りて來朝も多し

孔阜東有甫草駕言行狩

田の車も

好馬も壯り早く行てけし

けひさる農民の作物の害と

之子于苗選徒囂囂建旆設

旄と建旄と設
獸と教于搏

彼四牡を駕
四牡奕々
赤芾金舄會
同繹

決拾既一
矢既調
夫既同我
助我舉柴

旄搏獸于教

旄を搏む獸を教へし
○駕彼四牡

四牡奕奕赤芾金舄會同有繹

輶
觀會同
重て膝と
又金と以て舄と

と同して入朝
と同一く大
よ立繹

○決拾既飲弓矢既調射夫

既同助我舉柴

射術をなす

○四黃既駕兩驂不倚不失

其馳金矣如破

○蕭蕭馬鳴悠悠旆旌

徒御不驚大庖不盈

徒御不驚大庖不盈

徒御驚驚
大庖盈不

徒御驚驚
大庖盈不

之子于征聞
有聲無允
也大成

君の獲鹿を盈らざるをかく
○之子于征
有聞無聲允矣君子展也大成
法令の
たうきやくふふて田獵の聲も
セどり一危一徳と成就するの君子
いづくのり

吉日四章

吉日四章

宣王の田獵とる

吉日維戊既
伯既禱田車
既好四牡孔
阜升彼大阜
醜と從

吉日維戊既伯既禱田車既好四牡
孔阜升彼大阜從其羣醜
日とて家内と外の裏と
田獵と用とて己とるの裏と
て駟と司とる神と東方七宿の内と

吉日庚午既
我馬と差獸之
同所鹿鹿
之從天子之所
ろり

吉日庚午既差我馬獸之所同鹿鹿
麋麋漆沮之從天子之所
次の田
て房星と禱とる名づけて天
駟とる田の車もさる好むとる

彼中原と瞻
其祁孔有
有儵々侯々
友悉々左右
率以天子
と燕

儵侯侯或羣或友悉率左右以燕天
子
儵々侯々群々率以天子
中との左右する人々と率にんて天子

既張我弓既挾我矢
彼小豮發此大兕
以御賓客且以醴
賓客

鴻鴈三章

鴻鴈于飛肅肅其羽
之子于征劬勞
于野

既張我弓既挾我矢

發彼小豮殪此大兕以御賓客且以

酌醴

賓客天子之酒

鴻鴈三章

周の都成王の乱より

鴻鴈于飛肅肅其羽之子于征劬勞

于野爰及矜人哀此鰥寡

鴻鴈の寒暑と云け

矜人及哀此鰥寡

鴻鴈于飛中澤于集
之子于垣百堵皆作則
劬勞其究安宅也

鴻鴈于飛集于中澤
之子于垣百堵皆作雖則劬勞其究

安宅

中澤の中より上の心

民の居所と云け二丈の長さを堵と云け

庭燎三章

庭燎三章
 出づるの詩、天子早朝する
 侯伯諸子男の朝参とまつうけあふ
 政務と好あふと美しふとむかしう

[illegible]

夜如何其夜未央庭燎之光君子至
止鸞聲將將天子早ハハ起ハハ朝ハハ參ハハ
の人々を見あらんとし

又宣王^{せんおう}国政^{こくせい}とたゞさせぬ朝^{あそ}より朝^{あそ}へ出^でぬ人^{ひと}とてなりとぞその皇^み后^{ごう}姜^{きやう}后^{ごう}女^にの賢^{けん}德^{とく}うて色^{いろ}と好^{この}みたる替^か理^りと投^なさせぬ枕^{まくら}席^{せき}とあやまり晏^{えん}起^きぬ人^{ひと}の妻^{つま}が過^{あやまち}なりと諫^{いさな}めり入^いちり

上いん
 夜如何其夜未
 央るす庭燎之
 光君子至止鸞
 聲將々あり

夜よ如何いん其其夜未よま

衛士の庭燎の如くすなり
 用みりしもの莫くも。松。葦。竹。など
 諸侯伯諸宮人の君子出至る
 て馬車よりけり。和。鸞。の
 聲。將々てきこゆ。

○夜如何其

艾庭燎晰晰君子至止艾庭燎晰晰君子至止

夜如何其夜晨夜如何其夜晨

止言其旂止言其旂

汚水三章汚水三章

汚彼流水汚彼流水

載飛集載飛集

嗟我兄弟邦人嗟我兄弟邦人

諸友肯念亂諸友肯念亂

念莫誰父念莫誰父

母無人母無人

汚彼流水汚彼流水

其流湯其流湯

載飛集載飛集

經曲、餘市

夜未艾庭燎晰晰君子至止夜未艾庭燎晰晰君子至止

噦噦夜未艾庭燎晰晰君子至止

夜如何其夜鄉晨庭燎有輝君子至夜如何其夜鄉晨庭燎有輝君子至

止言觀其旂止言觀其旂

汚水三章汚水三章

汚彼流水朝宗于海汚彼流水朝宗于海

載飛集載飛集

載止嗟我兄弟邦人諸友莫肯念亂載止嗟我兄弟邦人諸友莫肯念亂

誰無父母誰無父母

勤勞之事勤勞之事

生之計生之計

我兄弟我兄弟

母母

湯湯湯湯

載飛集載飛集

寺經卷之四

彼不蹟と念て
載り起載り行
心之憂矣
不可不

就彼飛隼
彼中陵率
民之訛言
寧莫我
友敬夫
言其興人

載起載行心之憂矣不可弭忘

世の乱も道も蹟不して理に通じく人々の
行も身も心も安堵なく載り起載り
行も心も安堵なく載り起載り
行も心も安堵なく載り起載り

訛言寧莫之懲我友敬夫讒言其興

又彼飛隼率彼中陵民之
訛言寧莫之懲我友敬夫讒言其興
又彼飛隼率彼中陵民之
訛言寧莫之懲我友敬夫讒言其興

鶴鳴二章

鶴九臯于鳴聲
野于聞魚潛
淵在或
于在彼之園
樂其爰
有其下維
山之石以
錯

鶴鳴二章

君子の下人の

鶴鳴于九臯聲聞于野魚潛
在淵或
在于清樂彼之園爰有樹檀
其下維
擇他山之石可以為錯

鶴鳴于九臯聲聞于野魚潛
在淵或
在于清樂彼之園爰有樹檀
其下維
擇他山之石可以為錯

鶴九皋干鳴聲
 天于聞魚渚于
 在或潛淵
 樂在彼之園
 有其下維穀
 山之石以玉
 可攻

下維穀他山之石可以攻玉
 鶴鳴于九皋聲聞于天魚在于
 渚或潛在淵樂彼之園爰有樹檀其
 下維穀他山之石可以攻玉
 鶴鳴于九皋聲聞于天魚在于
 渚或潛在淵樂彼之園爰有樹檀其
 下維穀他山之石可以攻玉

詩經卷之四終

